



エコアクション21[®]
認証番号0001634

E A 2 1

2016年度環境活動レポート

2016年7月～2017年6月



株式会社 九州構造設計

2017年8月1日 作成

- 1 会社概要
会社概要／認証登録の対象組織・活動／受賞履歴
- 2 環境方針
基本理念／行動指針
- 2 経営理念
- 3 実施体制
- 4 過去3年間の環境負荷の実績
- 5 環境活動の取り組み結果と評価および次年度の取り組み
平成28年度実績
- 6 環境活動の取り組み結果と評価および次年度の取り組み
二酸化炭素排出量／電気使用量／ガソリン及び軽油使用量
一般廃棄物排出量／紙の使用量／使用水量
環境に配慮した業務推進／環境に配慮した業務提案／グリーン購入
地域との環境コミュニケーション／従業員の環境コミュニケーション力
- 22 社内での取り組み①
内部コミュニケーション／エコアクション21取組案内
冬のウォームビズ・夏のクールビズ宣言事業所登録
- 23 社内での取り組み②
3S活動の実践／本棚の一元化／環境上の緊急事態の訓練取組結果
- 24 環境関連法規への違反・訴訟等の有無
当社に適用される環境関連法規
佐賀市の『小規模事業所ステーション排出登録制度』の活用
- 24 代表者による見直しと評価



会社概要

| | | | |
|------------------|-----------------|--|---------|
| 会社名 | 株式会社 九州構造設計 | | |
| 代表 | 野中 達也 | | |
| 設立 | 昭和62年1月 | | |
| 資本金 | 1,000万円 | | |
| 所在地 | 本社 | 〒840-0017 佐賀県佐賀市新郷本町24番13号 TEL：0952-29-0898 FAX：0952-29-2503 HP：http://www.kyukoh.co.jp/ | |
| | 支店 | 武雄支店・唐津支店・鳥栖支店 | |
| 環境管理責任者 及び担当者 | 責任者 | 専務取締役 宮副一之 | |
| | 担当者 | 営業部 課長 牟田口 剛 | |
| | 連絡先 | TEL：0952-29-0898 FAX：0952-29-2503 | |
| 事業内容 | 設計部門 | 道路・河川砂防・造成及び都市計画・橋梁・各種構造物 公園景観設計・上下水道設計・農業及び森林土木設計 | |
| | 測量部門 | 基準点測量・地形測量・水準測量・路線測量・河川測量・用地測量 | |
| | 補償部門 | 物件・機械設備・営業・特殊補償・事業損失・補償関連 | |
| | 調査部門 | 地質・水質・環境・生態・コンクリート診断調査 | |
| | 環境部門 | 環境機器販売 | |
| 事業登録 | 建設コンサルタント登録 | 第 | 5988 号 |
| | 測量業登録 | 第 | 17355 号 |
| | 一級建築士事務所登録 | 第 | 993 号 |
| | 補償コンサルタント登録 | 第 | 3756 号 |
| | 地質調査業者登録 | 第 | 2494 号 |
| 社員数 | 29名（男23名・女6名） | | |
| 事業年度 | 平成28年7月～平成29年6月 | | |

認証登録の対象組織・活動

| | |
|--------|------------------------|
| 登録組織名 | 株式会社九州構造設計 |
| 関連事業所 | 武雄支店・唐津支店・鳥栖支店 |
| 活動 | 社会基盤整備に伴う測量・調査・設計・補償業務 |
| 認証登録番号 | 0001634 |
| 認証登録日 | 2007年6月15日 |

受賞履歴



平成21年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州
「環境パフォーマンス大賞・九州」
受賞



平成22年度エコアクション21
環境活動レポート大賞・九州
「環境レポート大賞」受賞



第15回 環境コミュニケーション大賞
大賞 環境活動レポート部門
「優秀賞（地球・人間環境フォーラム
理事長賞）」受賞

環境方針

基本理念

美しく持続可能な地球環境を次世代へ引き継ぐ為、社会基盤整備の計画者として、積極的に環境に優しい社会の実現に貢献します。

行動指針

1. 株式会社九州構造設計は、総エネルギー投入量、総物資投入量、水資源投入量の軽減に努め、温室効果ガス排出量の低下に貢献します。
2. 社会基盤整備の川上の位置付けにある建設コンサルタントの立場で、環境負荷の少ない社会の実現に寄与出来るよう、環境に配慮した設計の積極的な提案、ライフサイクルコストを考慮したインフラの効率的な維持管理計画の策定を行っていきます。
3. 環境管理活動の目標及び施策を活動計画の中で明らかにし、全従業員がそれぞれの役割に依りて、創意をもって環境管理活動を推進します。
4. 法規制を遵守し、環境汚染の防止や、環境保全の継続的な改善を図ります。
5. 継続的にグリーン購入を推進することにより環境保全活動に寄与します。
6. 地域の環境保全活動の推進に寄与し、地域との環境コミュニケーションの向上と従業員の環境コミュニケーション力の向上に努めます。
7. 環境レポートは、すべての従業員に周知すると共に、社外に開示します。



平成28年8月1日（改定）

佐賀県佐賀市新郷本町24番13号
株式会社九州構造設計

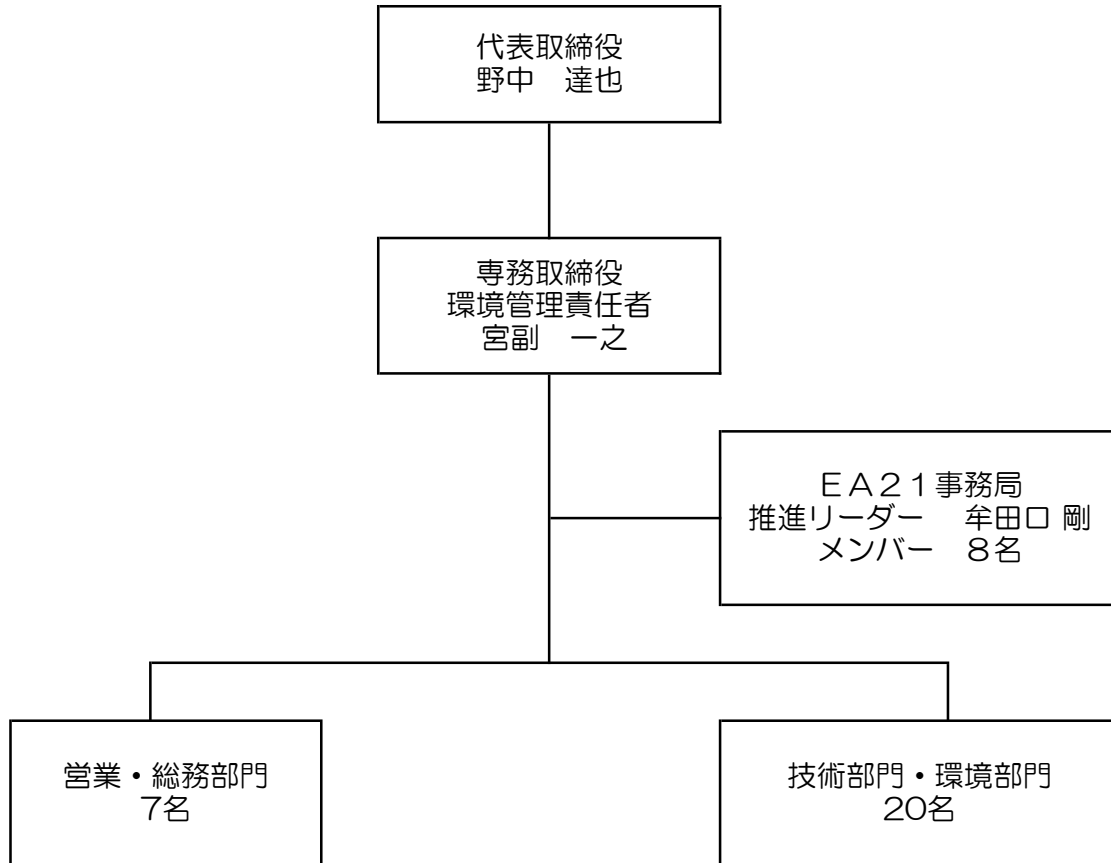
代表取締役社長

野中達也

経営理念

1. 縁有りて同じ籍を置く社員の結束のもと、「真・善・美」の心で、全社挙げて、社会貢献することを目的とする。
2. 社員とその家族の幸福・夢実現の為に、利益追求の舵取りに不断の努力を駆使して継続的繁栄を図り、100年企業を目指す。

実施体制



| 氏名 | 所属 | 役割・責任・権限 |
|---------|-------|--|
| 野中 達也 | 代表取締役 | 全体統括、環境方針の設定、環境への取組を実施するための資源の準備、全体の評価と見直し |
| 宮副 一之 | 専務取締役 | 全体の把握/環境管理責任者、環境経営システムを構築・運用し、その状況を社長に報告する |
| EA21事務局 | | EA21文書及び記録類の作成・維持・管理 |
| 牟田口 剛 | 営業部 | 推進リーダー（事務局の統括・環境目標・活動計画の進捗管理） 環境に配慮した業務提案 |
| 福島 司 | 技術部 | 二酸化炭素排出量の管理（ガソリン・軽油使用料・エコドライブ） |
| 大石 美佳 | 技術部 | 二酸化炭素排出量の管理（電気使用量） |
| 秀島 清 | 技術部 | 廃棄物排出量の管理 |
| 白浜 新 | 技術部 | 環境に配慮した業務推進 |
| 藤田 伸彦 | 技術部 | 総排水量の管理 |
| 湊上 良美 | 環境部 | グリーン購入の管理 |
| 向井 邦美 | 技術部 | 社屋周辺美化活動の管理 |
| 金原真理子 | 技術部 | 環境関連研修会参加の管理 |

過去3年間の環境負荷の実績

| 項目 | | 単位 | H25年度 (26人) | H26年度 (28人) | H27年度 (28人) | |
|------------------|-------------------|---------------------|-----------------------|----------------|----------------|--------|
| 削減目標 | 二酸化炭素排出量 | 絶対量 | kg-CO ₂ | 44,564 | 48,636 | 44,072 |
| | | 従業員1人当たり | kg-CO ₂ /人 | 1,714 | 1,737 | 1,574 |
| | 電気使用量 | 絶対量 | kWh | 17,992 | 17,304 | 17,108 |
| | | 従業員1人当たり | kWh/人 | 692 | 618 | 611 |
| | ガソリン及び軽油使用量 | 絶対量 | L | 15,002 | 17,024 | 15,288 |
| | | 従業員1人当たり | L/人 | 577 | 608 | 546 |
| | 廃棄物排出量 | 絶対量 | kg | 723 | 647 | 553 |
| | | 従業員1人当たり | kg/人 | 27.84 | 23.11 | 19.77 |
| | 紙の使用量 | 絶対量 | kg | 1,568.32 | 1,144.92 | 973.56 |
| | | 従業員1人当たり | kg/人 | 60.32 | 40.89 | 34.77 |
| | 総排水量 | 絶対量 | m ³ | 140.40 | 143.08 | 156.80 |
| | | 従業員1人当たり | m ³ /人 | 5.40 | 5.11 | 5.60 |
| プラス目標 | 環境に配慮した業務推進（技術部門） | 提案件数 | 件 | 5 | 42 | 27 |
| | 環境に配慮した業務提案（営業部門） | 提案件数 | 件 | - | 3 | 2 |
| | グリーン購入の推進 | 事務用品購入率 | % | 69.9 | 75.5 | 72.1 |
| | オゾン発生製品販売量 | 訪問件数 | 件 | 79 | 31 | 28 |
| | | 販売件数 | 件 | 10 | 5 | 3 |
| | | オゾン発生量 (mg/台×台) | mg | 1,642 | 932 | 1,502 |
| | 太陽光発電・オール電化製品販売量 | 訪問件数 | 件 | 12 | - | - |
| | | 販売件数 | 件 | 3 | - | - |
| | | 太陽光発電量 (kWh/件×件) | kWh | 159.35 | - | - |
| | LED照明器具の販売量 | 訪問件数 | 件 | - | 15 | 12 |
| | | 販売件数 | 件 | - | 2 | 2 |
| | 遮熱塗料ガイナの販売量 | 訪問件数 | 件 | 76 | 49 | 45 |
| 販売件数 | | 件 | 12 | 5 | 2 | |
| 地域美化活動（ボランティア活動） | 毎月1回 | 回 | 12 | 12 | 12 | |
| 環境関連研修会の参加 | 社外研修会 | 回 | 14 | 12 | 16 | |

環境活動の取り組み結果と評価および次年度の取り組み

平成28年度実績

| 項目 | 単位 | H28年度 (29人) | | | H29年度 (29人) | H30年度 (29人) |
|---|-----------------------|----------------|------------------------------|----|--------------------|----------------|
| | | 目標 | 実績 (達成率) | 評価 | 目標 | 目標 |
| 二酸化炭素排出量 (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | kg-CO ₂ /人 | 1,948以下 (-) | 1,317.3 (※1,※2) 〔148%〕 | ○ | 1,948以下 (-) | 1,948以下 (-) |
| 電気使用量 (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | kWh/人 | 764以下 (-) | 533 〔143%〕 | ○ | 764以下 (-) | 764以下 (-) |
| ガソリン及び軽油使用量 (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | L/人 | 686以下 (-) | 447.2 〔153%〕 | ○ | 686以下 (-) | 686以下 (-) |
| 廃棄物排出量 (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | kg/人 | 29.3以下 (-) | 18.67 〔157%〕 | ○ | 29.3以下 (-) | 29.3以下 (-) |
| 紙の使用量 (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | kg/人 | 47.2以下 (-) | 41.89 〔113%〕 | ○ | 47.2以下 (-) | 47.2以下 (-) |
| 総排水量 (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | m ³ /人 | 5.695以下 (-) | 5.616 〔101%〕 | ○ | 5.695以下 (-) | 5.695以下 (-) |
| 環境に配慮した業務推進 (技術部門) (H28年度からH30年度まで 同じ目標値とする) | 件 | 15以上 | 22 〔147%〕 | ○ | 15 | 15 |
| 環境に配慮した業務提案 (営業部門) | 件 | 5以上 | 2 〔40%〕 | × | H29年度より 項目を削除する | |
| グリーン購入の推進 (環境ラベル認定製品の事務用品 購入比率を60%以上とする) | % | 60.0以上 | 67.3 〔112%〕 | ○ | 60.0以上 | 60.0以上 |
| 地域との環境 コミュニケーションの向上 | 回 | 12以上 | 12 〔100%〕 | ○ | 12 | 12 |
| 従業員の環境 コミュニケーション力の向上 | 回 | 12以上 | 14 〔117%〕 | ○ | 12 | 12 |

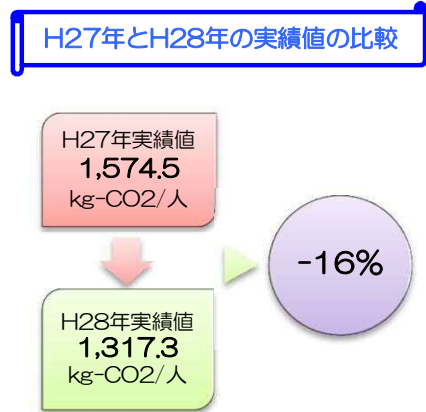
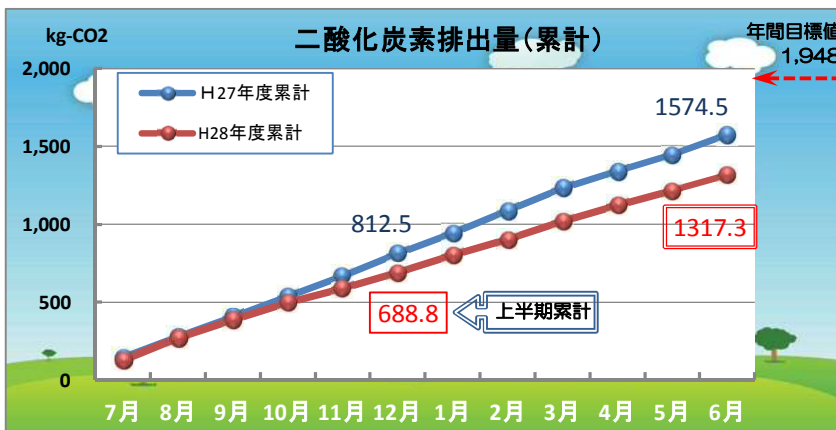
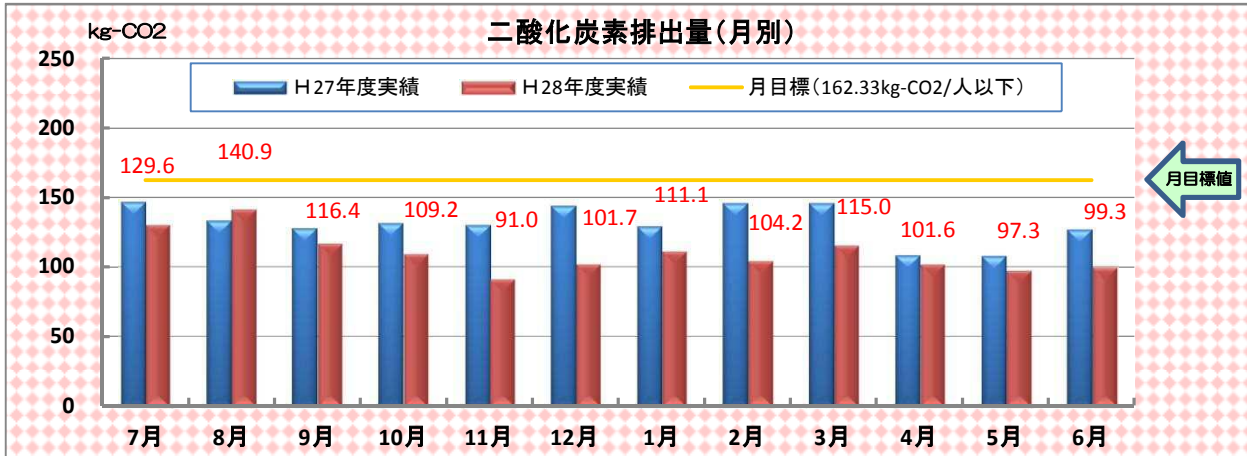
(※1) 電気事業者のCO₂排出係数は、0.509kg-CO₂/kWh (九州電力2015年度実績) を使用しました。

(※2) 二酸化炭素排出量総量：38,201kg-CO₂

環境活動の取り組み結果と評価および次年度の取り組み

1. 二酸化炭素排出量

削減目標



| 環境活動項目 | 結果 |
|-----------------|----|
| ①電気使用量の削減 | ◎ |
| ②ガソリン及び軽油使用量の削減 | ◎ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

平成28年度の取組結果の評価

全ての月において目標達成できました。数値も前年度に比べて多く削減できています。

平成29年度の取組目標

今年度も目標達成できるよう社員全員で取り組んでいきたいと思ひます。

■ 平成29年度目標値 1,948kg-CO2/人以下

設備投資事項



ハイブリッド型輻射式冷暖房システムの導入



営業・総務のエアコンをエコウィン（ハイブリッド型輻射式冷暖房システム）に入れ替えました。対流式エアコンで使用している冷媒を熱源媒体として利用しています。



3wayブラインドの導入



昼休みの消灯時でも以前より明るくなり、曇りの日はブラインドで調整を行っています。



屋根、外壁の遮熱塗装



社屋の屋根、外壁に遮熱塗料「ガイナ」の塗装を行いました。夏は冷房の効きがよく、冬は暖かい室内になっています。塗装前と比べ空調使用量が約22.0%削減になりました。

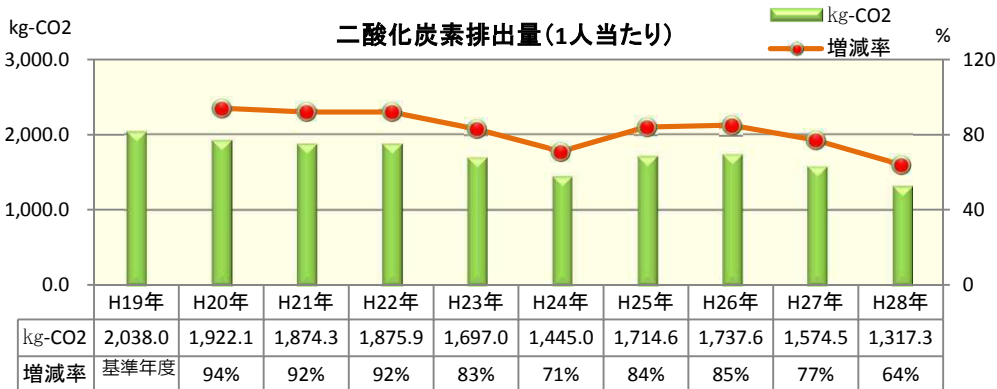


LED照明器具



蛍光灯をLED照明に交換し、電気使用量の削減に努めています。LED設置前と比べ約17.8%の電気量の削減になりました。

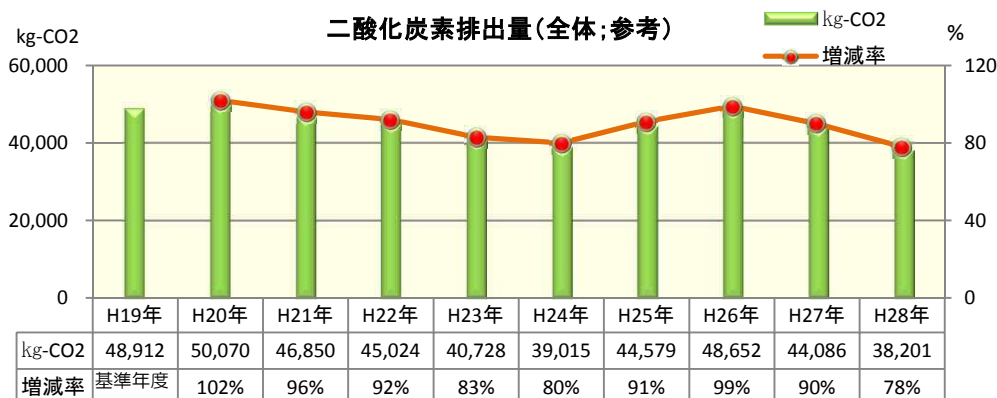
二酸化炭素排出量の推移



H19年実績比

-721kg-CO2/人

36%削減



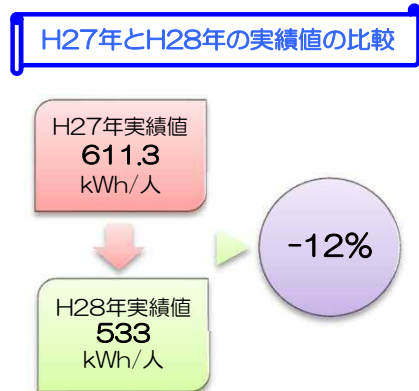
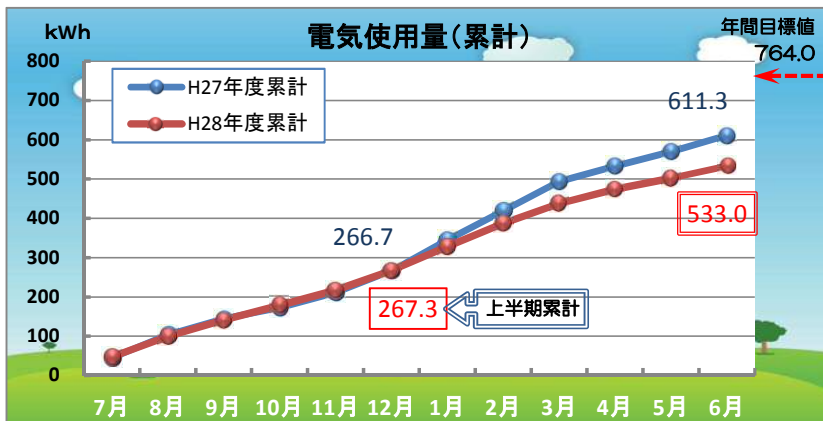
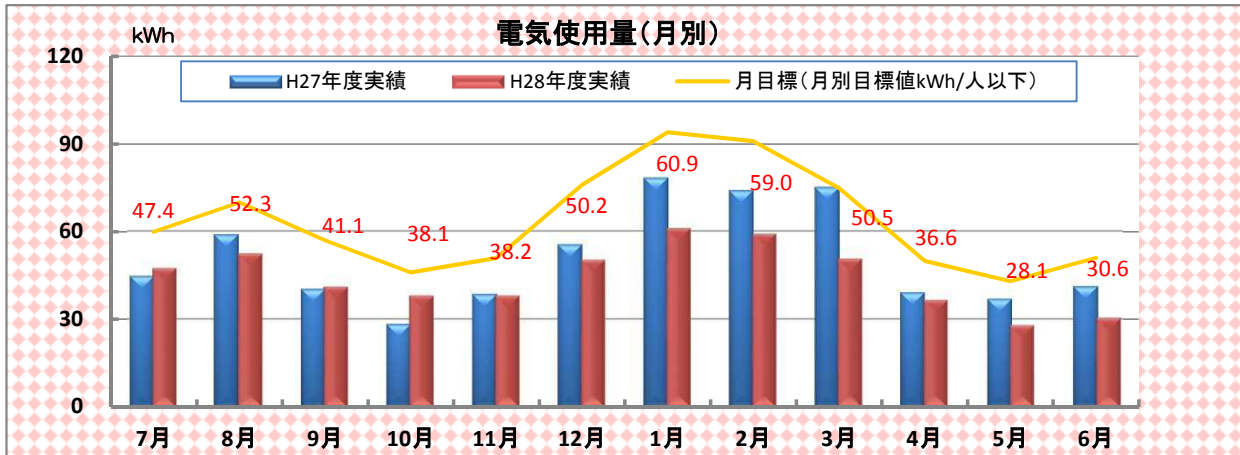
H19年実績比

-10,711kg-CO2

22%削減

2. 電気使用量

削減目標



| 環境活動項目 | 結果 |
|--|----|
| ①空調の適正化(冷房28度、暖房20度程度)を徹底する。(フィルターの定期的清掃を行う) | ○ |
| ②照明の適正化、昼休み、残業時等不必要な時は消灯スイッチの適正管理を積極的に行なう。 | ◎ |
| ③長時間外出時にはパソコンの電源をOFFにする。夜間休日時におけるOA機器の電源OFF。 | ○ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

平成28年度の実績結果の評価

H28年度は毎月目標値を達成することができました。特に暖房を使用する冬季は、前年度に比べると大幅に減少しています。これは全社員の協力があってこそその結果だと思えます。

平成29年度の実績目標

今年度から活動項目の空調の適正温度を冷房27度とすることに決定しました。より快適で効率のよい対策を取り組みながら、目標達成できるよう努めたいと思います。

■ 平成29年度目標値 764kWh/人以下

取組内容

空調機器の温度管理



フィルター
掃除

エアコンのスイッチには冷房28度、暖房20度の明示を行い、適正温度での使用に努めています。また、定期的にエアコンのフィルターの清掃を行っています。

照明の適正化



照明のスイッチにエリアを明示し、使用していないエリアの消灯、昼休み時間の消灯に努めました。また3wayブラインドを活用して照明の管理を行っています。

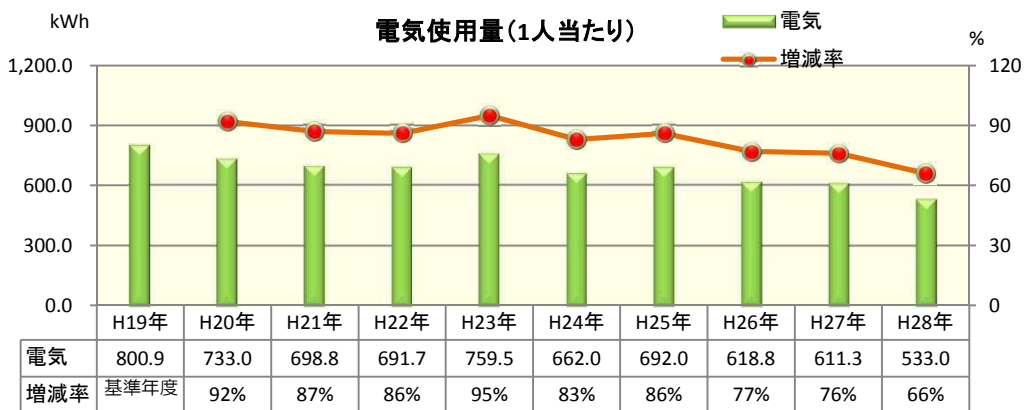
長時間外出時のパソコンの電源OFF



電源
OFF

外出時のパソコンの電源OFFや休日前はプリンターの主電源をOFFにしています。また出入り口のドアには消し忘れ防止の啓発シールを貼り、注意喚起と意識向上に努めています。

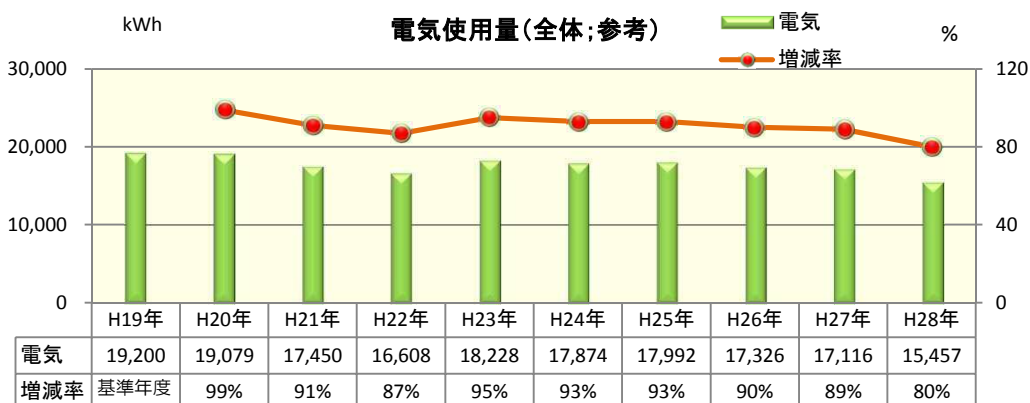
電気使用量の推移



H19年実績比

-267.9kWh/人

34%削減



H19年実績比

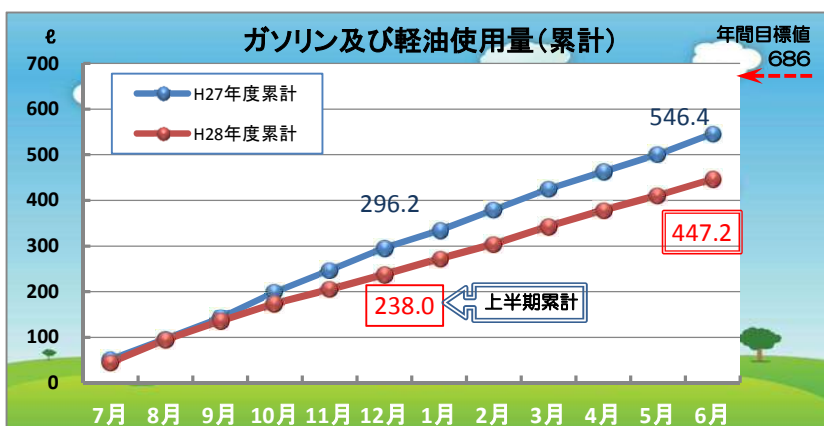
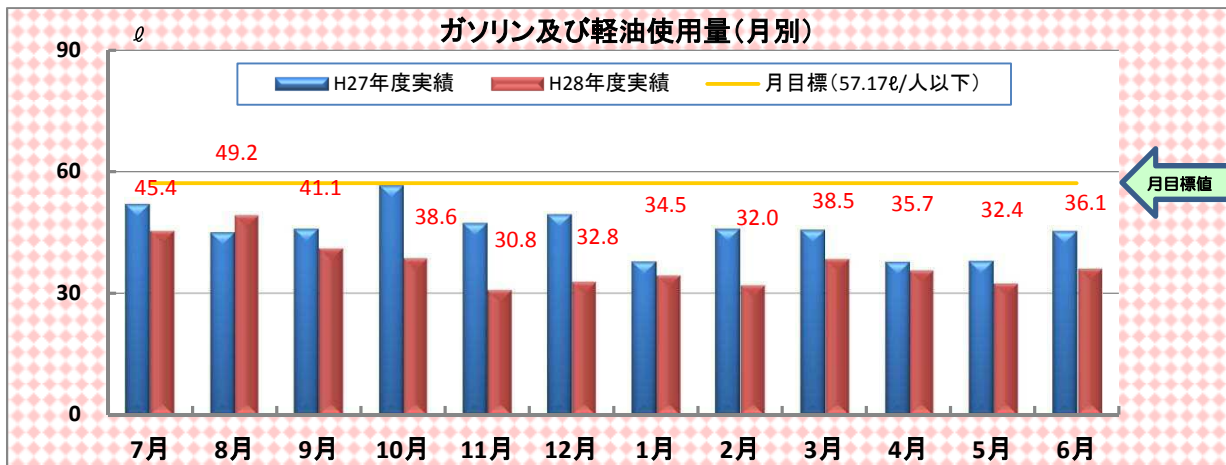
-3,743kWh

20%削減

3. ガソリン及び軽油使用量

削減目標

| | | | |
|--------------------------|--------------|-------|----|
| 平成28年度目標 686 ℓ/人以下 | H28年度実績 | 目標達成率 | 評価 |
| | 447.2 ℓ/人 | 153% | ○ |



H27年とH28年の実績値の比較

| | |
|-------------------------|------|
| H27年実績値 546.4 ℓ/人 | -18% |
| H28年実績値 447.2 ℓ/人 | |

| 環境活動項目 | 結果 |
|--|----|
| ①燃費向上に取り組む。(タイヤの空気圧を定期的に確認し適正值に保つようにする。) | ◎ |
| ②急発進、急加速や空ふかしの排除、駐車場でのエンジン停止を行う。 | ◎ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

H28年度の実績結果の評価

エコドライブ意識により全ての月で燃費向上やガソリン使用量削減の目標達成できて良かった。

H29年度の実績目標

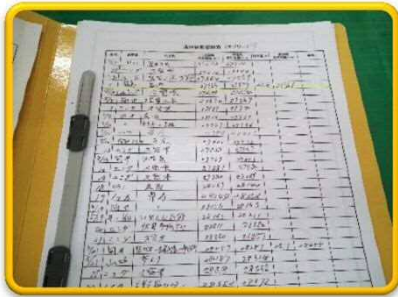
今年度は目標達成はもちろんのこと、これまで以上に環境活動項目内容を徹底・実践し、更なる削減に努めていきたいと思っております。

■ 平成29年度目標値 686L/人以下

取組内容



車両管理表



社有車毎に車両管理表に走行距離等を記録し、燃費算出表を作成しています。



社有車の燃費向上への取組



- ・禁煙車
- ・エアコンは適温で使用しましょう
- ・タイヤの空気圧を定期的にチェックしましょう

社有車にはエコドライブを心掛けてもらえるように啓発シールを貼りました。



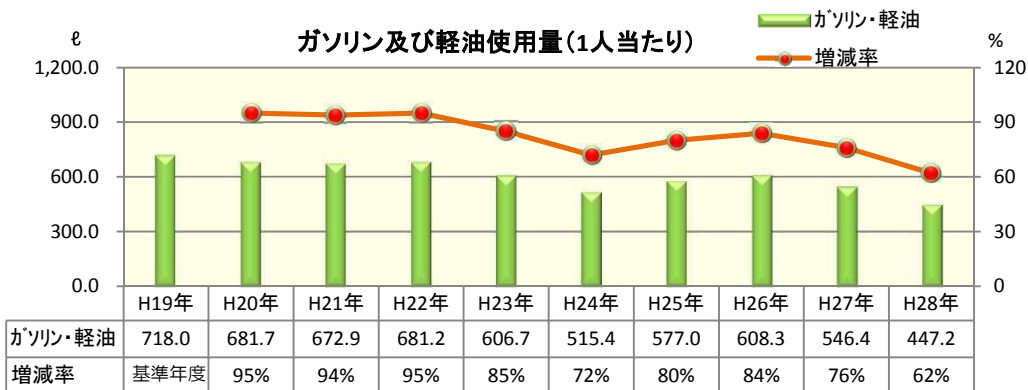
～セーフティドライブエコア～

- ① 「ふんわりアクセル」でやさしい発進
- ② 「車間距離」は余裕をもって安全走行
- ③ 早めにアクセルオフ「エンジンブレーキ」を積極的
- ④ 「無用なアイドリング」をやめて直ぐに出発
- ⑤ 「渋滞や道路交通情報」等のチェックを
- ⑥ 「タイヤの空気圧」はこまめにチェック
- ⑦ 「不要な荷物」は積まずに走行

エコドライブは安全運転のスタートラインです。



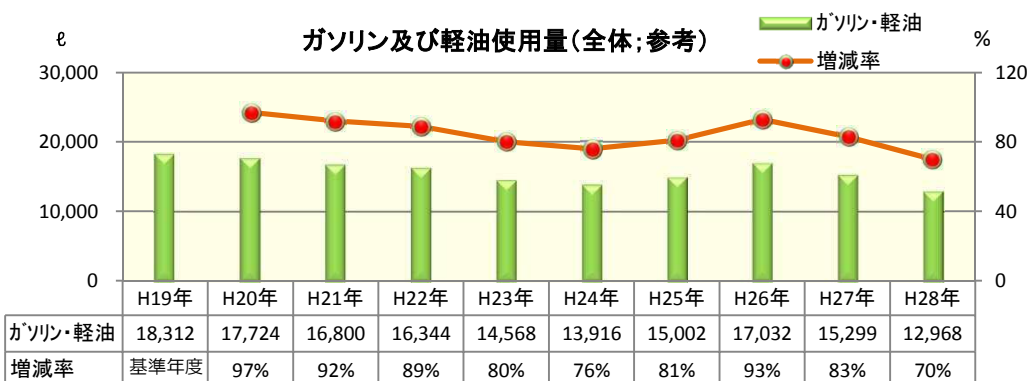
ガソリン及び軽油使用量の推移



H19年実績比

-270.8ℓ/人

38%削減



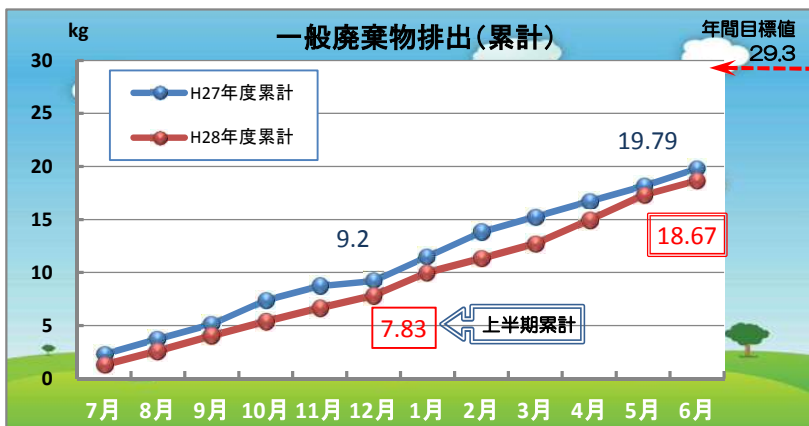
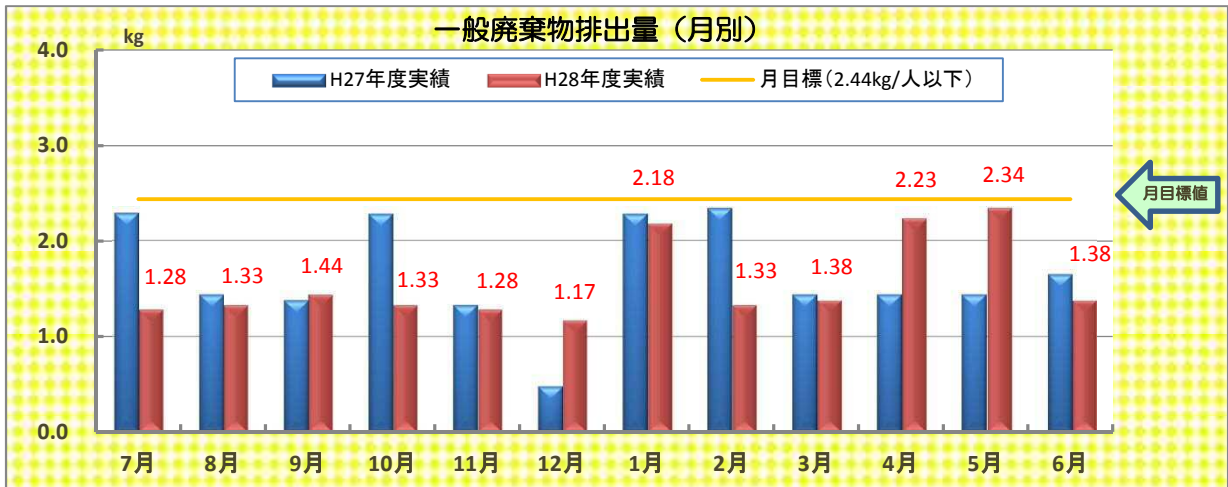
H19年実績比

-5,344ℓ

30%削減

4. 一般廃棄物排出量の削減

削減目標



取組内容

ごみの削減



個人のゴミ箱を排除し、事務所のゴミ箱を1ヶ所にまとめたことで、ごみの量の大幅な削減につながりました。1回の排出量も記入し、集計しています。

資源物の収集



名刺サイズ以上の紙や、封筒、不定形の紙は紙袋に入れて、資源物として出しています。

リサイクル



ダンボール
回収

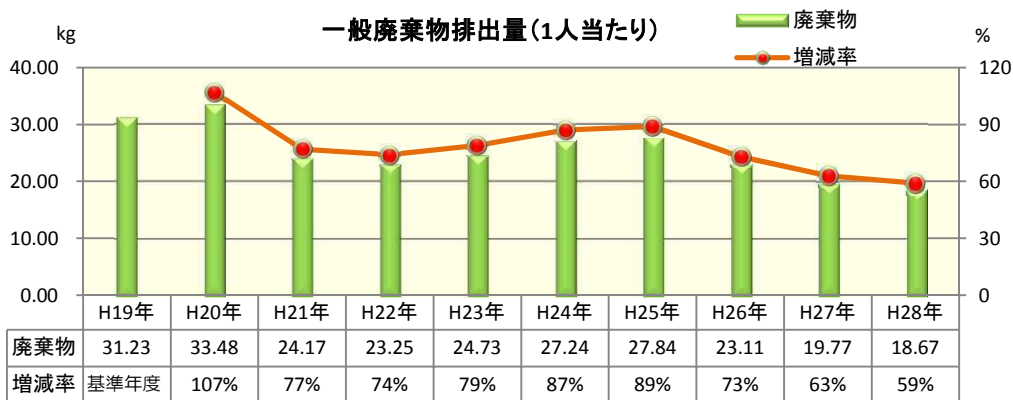


テプラ
カートリッジ
回収



使い終わったテプラカートリッジや用紙、消耗品のダンボールは納入業者に回収していただき、リサイクルに回しています。

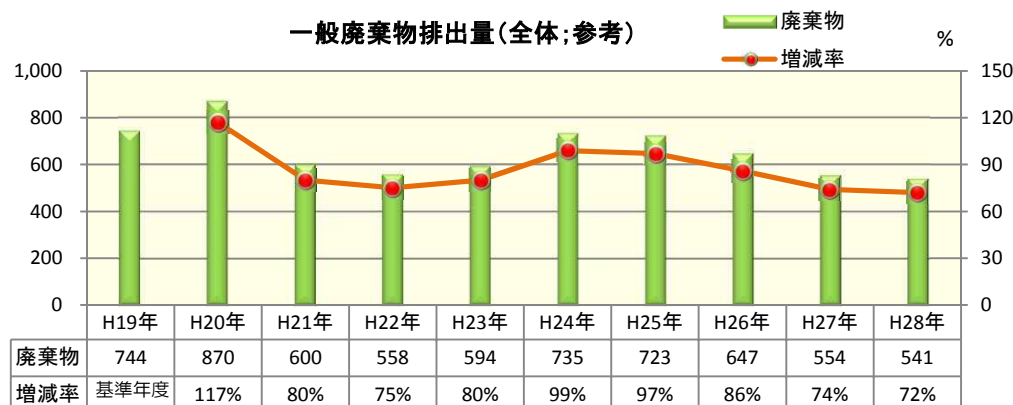
廃棄物排出量の推移



H19年実績比

-12.56kg/人

41%削減

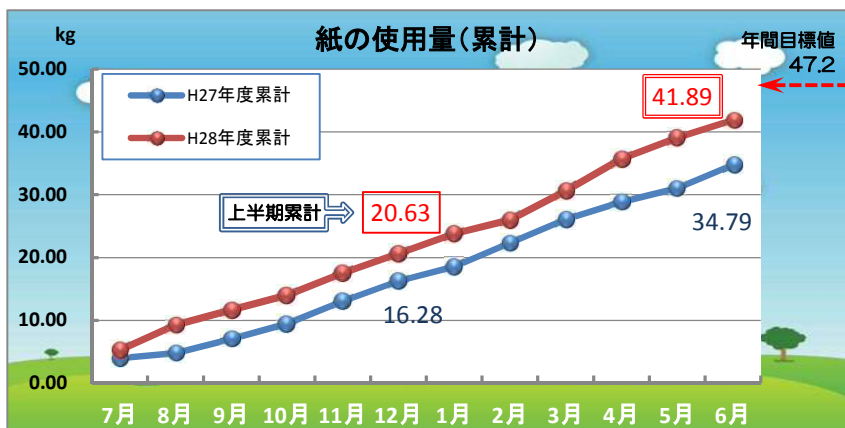
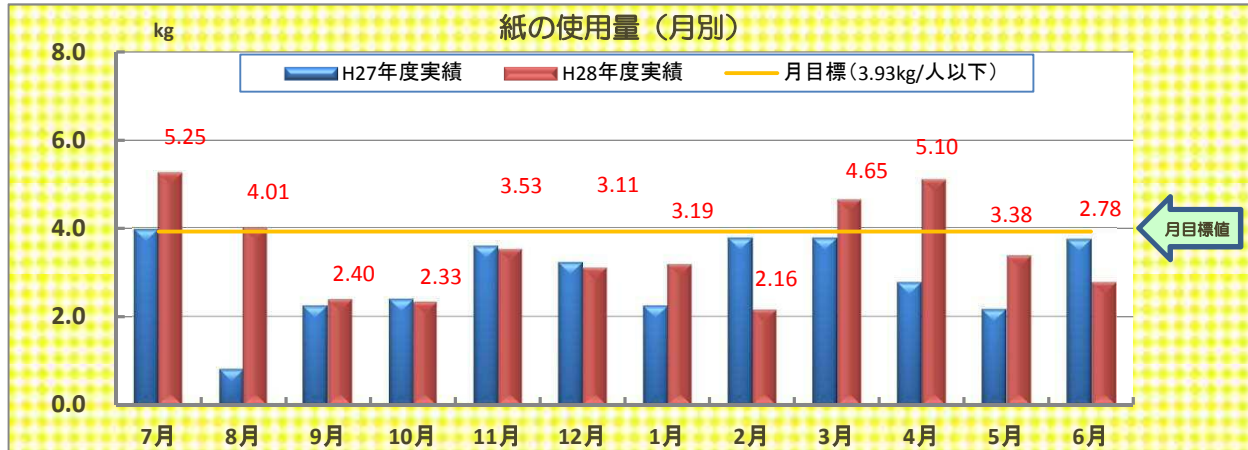


H19年実績比

-203 kg

28%削減

5. 紙の使用量の削減



取組内容



裏紙の使用



使用済みの紙をサイズ別にボックスに回収し、会議資料等の社内文書は裏紙を使用しています。



両面印刷の推進

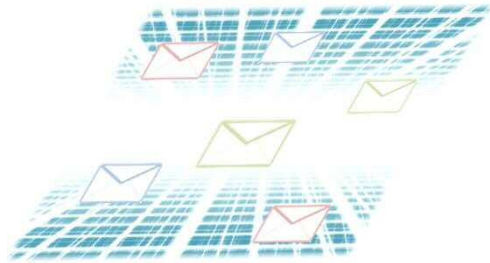


**両面印刷・両面コピー
に努めましょう**

コピー機に啓発シールを貼り、両面印刷・両面コピーを推進しています。

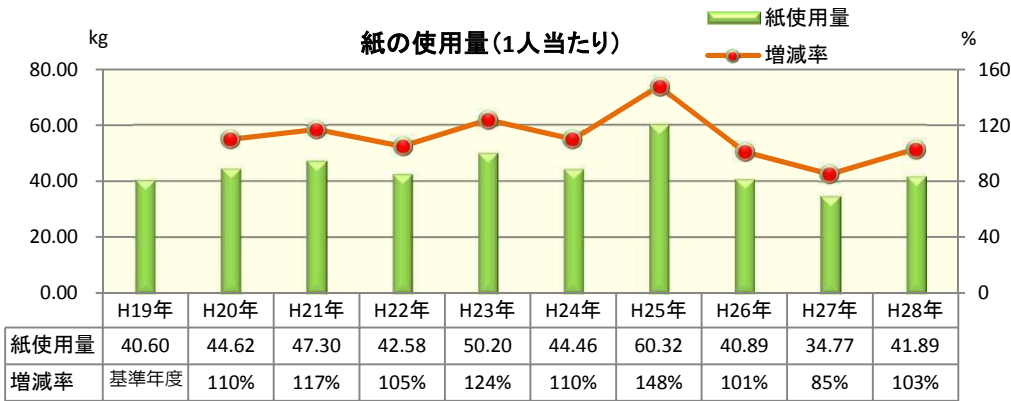


電子メディア等の利用

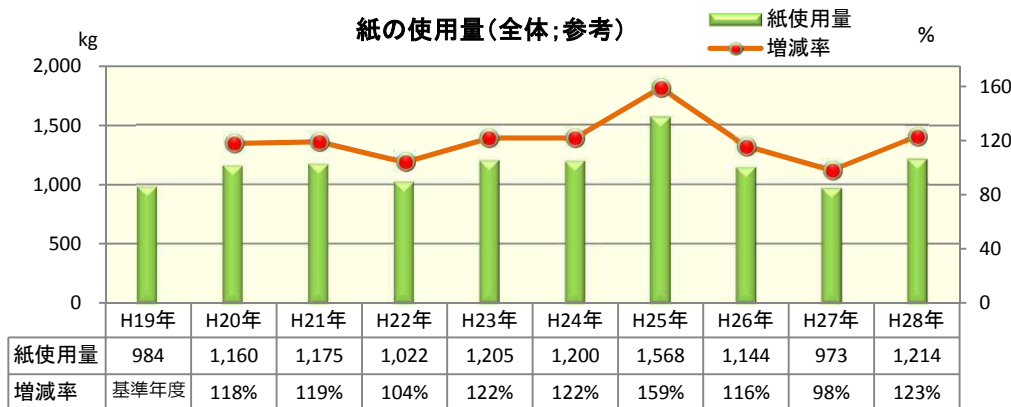


回覧等はメールやサイボーズ（掲示板）を利用し、ペーパーレス化に取り組んでいます。

紙の使用量の推移



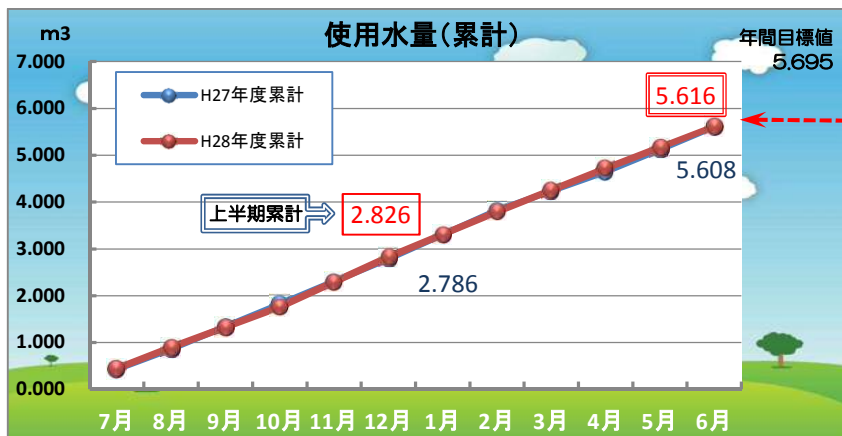
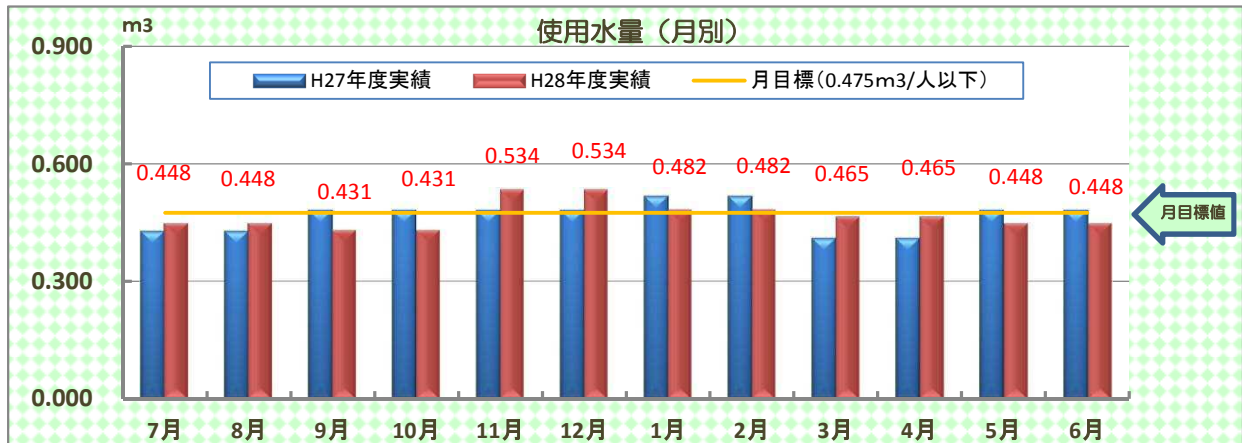
H19年実績比
+1.29kg/人
3%増加



H19年実績比
+230kg
23%増加

6. 使用水量の削減

削減目標



取組内容

節水



社内の水道蛇口、トイレのタンクには使用量からみて最適な節水コマを取り付けて節水に努めています。



洗車の際には、ホースに節水ノズルを取り付け、水の出っぱなしを防いでいます。

清掃活動での雑巾の洗濯



雑巾洗濯日: 週2回

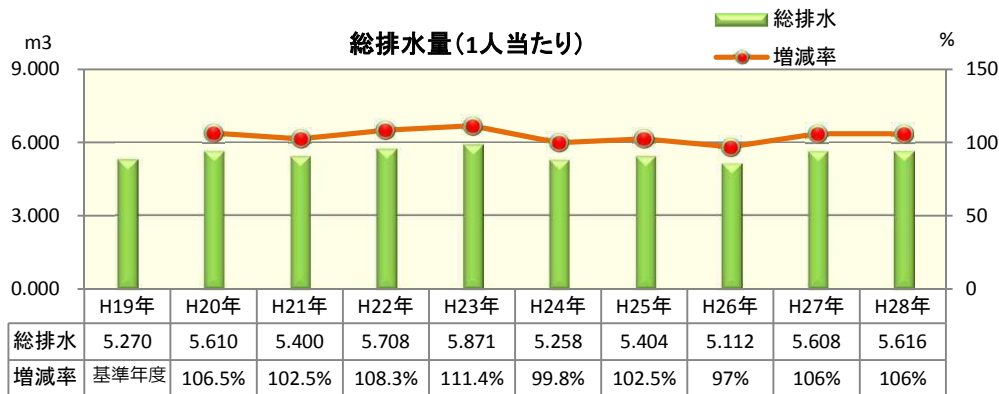
毎朝の3S活動（整理・整頓・清掃）で使用した雑巾は洗濯機の使用を週2回と決め、まとめて洗濯することで使用する水の量をカットしています。

節水シールでの啓発



社内全ての蛇口に節水シールを貼り、流しっぱなしの防止に努めています。

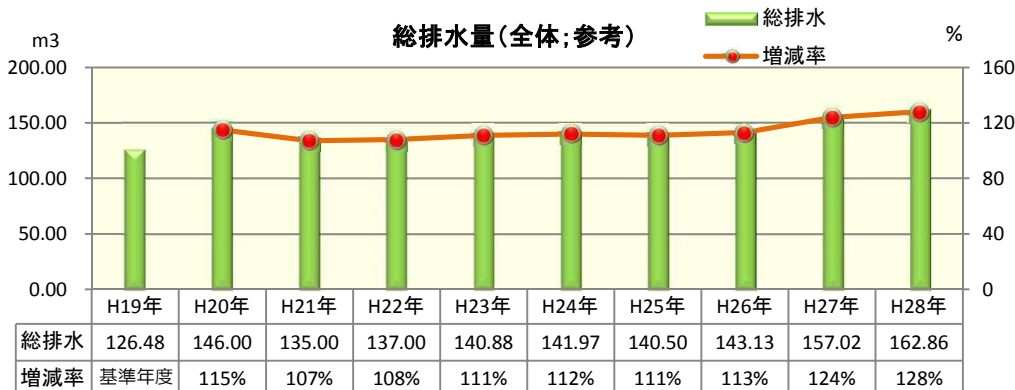
総排水量の推移



H19年実績比

+0.346m3/人

6%増加



H19年実績比

+36.38m3

28%増加

7. 環境に配慮した業務推進（技術部）

プラス目標



| 環境活動項目 | 結果 |
|------------------|----|
| ①環境に配慮した工法を提案する。 | ◎ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

H28年度の実績と評価

前年度に引き続き、目標を上回る業務推進を行うことができました。継続していくことで社員の意識も高まってきたと感じられます。内容としては、特に残土を少なくする工夫をすることで、残土運搬に係るダンプトラックの運転時間を軽減、すなわち、ガソリン（軽油）の削減が図れたことは評価できます。

H29年度の実績目標

今年度も昨年に引き続き、環境影響の低い工法や施工計画を積極的に立案し、発注者へ理解を求めています。

■ 環境に配慮した業務推進 15件以上

取組内容



該当者に、環境に配慮した工法の提案を行ったか、毎月アンケートを回しています。

| 項目 | 評価 | 件数 |
|--|----|----|
| 建設機を主に環境に配慮した材料として使用し、残土運搬・残土削減の少ない設備を導入した。 | ○ | 1 |
| 省エネポンプ型、省エネ型の建設機械や資材を使用した。（大型機械採用による施工台数の削減など） | ○ | 1 |
| 騒音、振動の低減に配慮した工法や建設機械及び設備を採用した。（作業時間短縮の活用など） | ○ | 1 |
| 構内木材の活用など地域の自然素材を利用した。（不伐産物の活用等） | | |
| 水や資源を再利用する設備の導入を行った。（雨水貯留タンク・スプレッダー等を導入した設備の活用等） | | |
| 住宅や商業施設等の環境に配慮した設計提案を行った。（緑地計画、養生作業等の削減計画） | | |
| 自然環境の美しい景観を有する開発の提案と、防災計画とした。（防災対策を併せて実施する開発工事を推進する、道路標識の設置し等） | | |

8. 環境に配慮した業務提案（営業部）

プラス目標



| 環境活動項目 | 結果 |
|------------------|----|
| ①環境に配慮した工法を提案する。 | △ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

H28年度の実績と評価

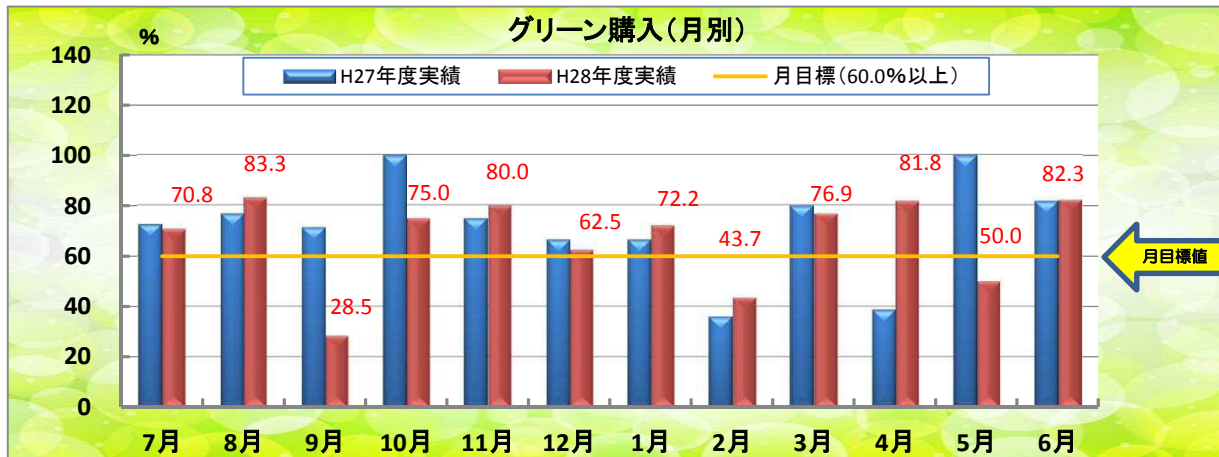
環境に配慮した工法の提案は対象業務が著しく限られ、現状の営業内容では提案する事案がほとんどない状況です。また、環境に配慮した建設機械や二次製品等は一般化されているものも多いため、通常業務との境目があいまいな面もあります。このため、今年度も目標達成とはならなかったが、今後も増加することはあまり見込めません。

※今年度で環境に配慮した業務提案（営業部）の項目を削除します。

平成28年度目標 60%以上

H28年度実績 67.3%

評価 ○



| 環境活動項目 | 結果 |
|-----------------------|----|
| ①環境ラベルの認定製品を優先的に購入する。 | ○ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

H28年度の取組結果の評価

グリーン購入適合商品の購入目標が達成できなかった月もありましたが、年間を通して全社員がグリーン購入適合商品を優先的に購入することができていました。

★159品目中108品目

H29年度の取組目標

本年度も価格を考慮しながら環境ラベル認定製品を優先的に購入するよう推奨していきます。

■ グリーン購入の推進 60%以上

取組内容

必要な事務用品をリストアップし、【グリーン購入調達目標一覧表】として社内に掲示しています。

| | | | |
|-----------------|---------|--------|---|
| ボールペン | BM-10A4 | 945 | |
| ファイル(ファイル用台紙5冊) | DR-21 | 4,100 | ○ |
| ふりかけ台紙 | ア-278N | 1,995 | ○ |
| ふりかけ台紙 | ア-269 | 1,659 | ○ |
| (A3) | A-706 | 1,995 | ○ |
| (A4) | A-717 | 799 | ○ |
| Term | | 3,000 | × |
| A402TOR6 | | 10,000 | × |
| A403TOR8 | | 9,200 | × |
| A405TOR6 | | 9,200 | × |

発注時、可能なものはグリーン購入推奨商品を発注しましょう。



| 環境活動項目 | 結果 |
|---------------------|----|
| ①月1回の社屋周辺美化活動を推進する。 | ◎ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

H28年度の実績結果の評価

今年度は、月始めの周知を心がけ、毎月の活動を休むことなく目標達成することが出来ました。

H29年度の実績目標

本年度も引き続き、「社屋周辺美化活動を月1回取り組む」ことを目標とします。

■ 地域貢献（ボランティア活動） 12回以上

取組内容

毎月1回、社屋周辺の美化活動を行っています。
 ごみは空き缶や、ペットボトルなど毎回1～2袋になり、回収したゴミは、市指定の袋に分別して搬出しています。
 美化活動に対し自治会長様から感謝の言葉を頂き、回覧板で広く紹介していただきました。
 社員に周辺住民とのコミュニケーションの大切さの意識が芽生えてきています。

当社は、市民と佐賀市が協働で進める
 『アダプトプログラム ～さわやかマイタウンSAGA～』に参加しています。

1年間で集めたゴミの量

- ・燃えるゴミ 13袋
- ・空き缶 5袋
- ・ペットボトル 5袋



11. 従業員の環境コミュニケーション力の向上



| 環境活動項目 | 結果 |
|---------------------|----|
| ①環境関連研修会へ12回/年参加する。 | ◎ |

◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

H28年度の取組結果の評価

今年度は、14回の講習会に延べ28名が参加しました。佐賀環境フォーラムにおいては、予定者全員の受講という目標を達成し、併せて年間目標も達成できました。

H29年度の取組目標

「佐賀環境フォーラム」の一人一講座の受講を目標にします。受講後のレポートは社内で回覧し、受講内容を全員で共有することで、より一層環境についての意識を高めていけるよう努めます。

■ 環境関連研修会への参加 12回以上

取組内容

佐賀環境フォーラムへの参加

環境問題に対する正しい認識を培うことで、環境に関する理解を深め、行動に結び付けて欲しいとの思いから佐賀大学と佐賀市が連携して、お互いのノウハウを生かしながら、大学、行政、企業、市民が一同に会する「佐賀環境フォーラム」が開催されています。社員の環境教育の推進として、この講義に毎年全員が参加しています。参加後はレポートを作成、全社員に回覧することで周知を図っています。

| 日 | 時 | 講義内容 | 担当 | 講師 |
|------|-------------|--------------------|---------------------|---------|
| 7/26 | 13:00-15:00 | 環境経営・省エネセミナー | 佐賀大学 経営学部 経営学系 環境学 | 伊藤 隆夫 氏 |
| 8/1 | 13:00-15:00 | 環境経営の基礎 | 佐賀大学 経営学部 経営学系 環境学 | 伊藤 隆夫 氏 |
| 8/1 | 15:30-17:30 | 環境とエネルギーの関わり | 佐賀大学 経営学部 経営学系 環境学 | 伊藤 隆夫 氏 |
| 8/1 | 13:00-15:00 | ドイツの環境政策の概要 | 一橋大学 環境学センター 環境学 | 中野 弘之 氏 |
| 8/1 | 15:30-17:30 | 生物多様性の報告の概要 | 環境省 生物多様性センター 生物多様性 | 竹内 文彦 氏 |
| 8/1 | 13:00-15:00 | 省エネの基礎知識 | 佐賀大学 経営学部 経営学系 環境学 | 伊藤 隆夫 氏 |
| 8/1 | 15:30-17:30 | 「暮らしにやさしい」省エネの取り組み | 環境省 省エネ推進課 省エネ推進 | 中野 弘之 氏 |
| 8/1 | 13:00-15:00 | 「暮らしにやさしい」省エネの取り組み | 環境省 省エネ推進課 省エネ推進 | 中野 弘之 氏 |
| 8/1 | 15:30-17:30 | 「暮らしにやさしい」省エネの取り組み | 環境省 省エネ推進課 省エネ推進 | 中野 弘之 氏 |
| 8/1 | 13:00-15:00 | 「暮らしにやさしい」省エネの取り組み | 環境省 省エネ推進課 省エネ推進 | 中野 弘之 氏 |
| 8/1 | 15:30-17:30 | 「暮らしにやさしい」省エネの取り組み | 環境省 省エネ推進課 省エネ推進 | 中野 弘之 氏 |

【講義一覧】

第4回 佐賀環境フォーラムレポート

日時：平成28年8月1日 13:00-15:00 (佐賀大学 経営学部 経営学系 環境学)

講師：一橋大学 環境学センター 中野 弘之 氏

題目：ドイツの環境政策の概要

受講者：全社員

【講義内容】

環境先進国ドイツの環境政策の概要、省エネ推進への環境教育の重要性についての内容であった。

1. 環境政策の概要

- ・省エネ推進を主目的として、環境先進国ドイツから経験や知見を学ぶことを目的とした講義であった。
- ・ドイツの環境政策の概要、省エネ推進の重要性、省エネ推進の推進体制等について説明があった。

2. ドイツの省エネ政策

- ・ドイツの省エネ政策の概要、省エネ推進を主目的として説明があった。
- ・ドイツの省エネ政策の概要、省エネ推進の重要性、省エネ推進の推進体制等について説明があった。

3. 省エネ推進への環境教育

- ・ドイツの省エネ政策の概要、省エネ推進を主目的として説明があった。
- ・ドイツの省エネ政策の概要、省エネ推進の重要性、省エネ推進の推進体制等について説明があった。

【感想】

ドイツの環境政策の概要が非常に興味深いものであった。省エネ推進への環境教育の重要性が改めて認識できた。また、ドイツの省エネ政策の概要、省エネ推進の重要性、省エネ推進の推進体制等について説明があった。

【レポート】

修了証

株式会社 九州構造設計 様

あなたは平成28年度佐賀環境フォーラムのすべての課程を修了したことを証します

平成28年7月21日

佐賀環境フォーラム実行委員会
委員長 滝澤 肇

【修了証】

その他環境関連研修会への参加

| 月 日 | タイトル | 内 容 |
|------------|---------------|---------------------|
| 2016年7月26日 | 環境経営・省エネセミナー | 環境経営から経費削減を考える |
| 2017年1月24日 | 環境にやさしい生活セミナー | 「買う」「使う」「捨てる」を考えよう。 |

社内での取り組み ①

【内部コミュニケーション】

「環境目標の達成状況」と「環境活動計画の実施状況」は毎月担当がコメント、数値入力を行い、その結果をメールで社員全員に配信することで周知徹底を図りました。配信した各月の結果、及び各自の取組について社員全員にコメントを求めています。また、寄せられた提案事項、要望等に対しては事務局で検討を行っています。

実施状況と評価

毎月のコメント入力表

【エコアクション21取組案内】

協力会社に対して、弊社が取り組んでいるエコアクション21の活動を案内しています。空調機器の温度管理や両面印刷の推進等、取組の協力を依頼しています。また、環境活動レポートの配布も行っています。

【冬のウォームビズ】・【夏のクールビズ】 宣言事業所登録

佐賀県では、事業所や家庭における温暖化対策を推進するため、事業所及び職員の家庭で実践することを宣言する「冬のウォームビズ宣言事業所」、「夏のクールビズ宣言事業所」の募集が行われ、昨年同様、弊社も登録を行い、入り口のドアに掲示しています。

社内での取り組み ②

【3S活動（整理・整頓・掃除）の実践】

毎朝10分程度、全社員で床磨き、社屋の窓拭き、敷地内の草むしり等を行っています。
個人の机、事務用品の棚は整理・整頓を心掛けています。



【本棚の一元化】

3S活動（整理・整頓・清掃）の一環で、壁一面に本棚を作成し、今まで各課ごとに分散していた資料を一箇所にまとめました。また、事務用品も収納ケースに入れて1箇所にまとめ、探しやすくしています。



【環境上の緊急事態の訓練取組結果】

富士警備様より消火器の安全な使用方法を指導していただき、水消火器で消化訓練を行いました。
社内全ての差動スポットと低温スポットの稼働検査結果、システムが有効に機能していることを確認しました。



環境関連法規への違反・訴訟等の有無

【当社に適用される環境関連法規】

当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、フロン排出抑制法の3ヵ月毎の簡易点検が出来ていなかったが、それ以外の違反はありませんでした。

また、関係当局より違反等の指摘や利害関係者からの訴訟や苦情はありませんでした。引き続き環境関連法規遵守の維持に努めます。



空調機器の簡易点検

【佐賀市の『小規模事業所ステーション排出登録制度』の活用】

佐賀市では通常、事業所から排出される廃棄物は、ごみステーションへ出すことは出来ないことになっています。ただし、ごみ質が一般家庭から日常的に排出されるものと判断できるものであり、収集日1回あたりの排出量が、日常的に少量である場合に限り、自治会等の承認を受け、廃棄物をごみステーションへ出すことができます。九州構造設計はこの『小規模事業所ステーション排出登録制度』を利用し、登録をしております。

この制度を利用するには、実施要綱の規定を遵守することが必要不可欠であり、企業の社会的責任を果たす観点からも重要であります。

また、小規模事業所ステーション排出事業所は、実施要綱基準を満たすとともに、佐賀市廃棄物の減量推進及び適正処理等に関する条例第4条、第5条を遵守することが条件とされています。（条例等の変更については随時確認をして対処しています。）

ごみステーションには、周辺の方の迷惑にならないように上記実施要綱を遵守しており、違反や訴訟はありません。

代表者による見直しと評価

エコアクション21を導入して10年目となり、活動内容も深いものとなって社員全員のエコ活動が根付いた事を感じます。

今年度はエコアクション21事務局員が一新されて、環境方針の見直しもあり、新たなエコ活動の年となりました。

今年度も環境目標をほぼ達成することができ、環境負荷低減に大きく寄与出来たと同時に、全社員の環境への意識の高さを感じました。

今後の業務においては技術部門、営業部門で協力して環境に配慮した業務推進を行い、総合建設コンサルタントとしてさらなる躍進を目指します。

全般的に見ると、エコアクション21活動のPDCAサイクルは上手く機能しており、全社員が目標達成に向けて日々取り組んでいると評価し、今後の活動を期待します。

代表取締役社長

野中



達也